

嘉納治五郎銅像建立趣意書

講道館を創設したことで知られる嘉納治五郎(1860年12月9日～1938年5月4日)は柔道・スポーツ・教育分野の発展や日本のオリンピック初参加に尽力するなど、日本に於けるスポーツの道を開きました。特に「柔道の父」と呼ばれることで有名ですが、一方で学習院教頭、東京高等師範学校(現筑波大学)校長、旧制第五高等中学校(現熊本大学)校長を歴任するなど教育者としての功績も大きいものがあります。

大正時代、我孫子に住居を構えた志賀直哉に私淑した瀧井孝作が、「嘉納治五郎という人は、我孫子の大事な人じゃないかな」と語っています。その真意は「嘉納治五郎が最初に我孫子に来て、甥の柳宗悦を呼び、柳が志賀や武者小路実篤を呼んだのだから、我孫子にとっては“大事な人”だ」ということです。その大事な人、嘉納が我孫子の天神山(我孫子市緑)に別荘用地を買ったのは1911年(明治44年)のことでしたが、同じころに白山に約2万坪の土地を手当てしています。この土地は1919年(大正8年)頃から「嘉納後楽農園」として野菜や果樹の栽培が行われました。新しい農業技術を学んだ人材を迎えたこの農園は当時ユニークな農園でもありました。

嘉納治五郎はこの別荘を大層気に入っていたようで、1925年(大正14年)頃から亡くなる前年まで、「我孫子で静養」「家族と共に我孫子へ」「夫人同伴で我孫子へ」「孫たちが我孫子に来訪」「我孫子で越年」という記述が各年数回の頻度で現れます。手賀沼を見下ろす位置にあるこの地は現在、「天神山緑地」(嘉納治五郎別荘跡地)として市民に公開され、愛されています。

私どもは、偉大な功績を挙げた嘉納治五郎が我孫子で過ごしたことを我孫子市民の誇りと捉えるとともに永く歴史にとどめるため、嘉納が晩年愛したこの緑地に銅像を建立して後世に伝えていきたいと考えました。また銅像の建立は我孫子市の活性化にも寄与することと考えます。

2020年は東京でオリンピックが開催されます。嘉納は1940年(昭和15年)のオリンピック(実際には開催されず「幻のオリンピック」と呼ばれる)を招致したことで知られています。この年は奇しくも嘉納治五郎生誕160年になります。

嘉納治五郎銅像建立のため、我孫子市にゆかりの人だけではなく、嘉納治五郎を愛する多くの方々からも広く浄財を募りたいと思います。

2018年1月

我孫子の文化を守る会

我孫子の大事な人！嘉納治五郎の銅像を共に建てませんか？